

令和8年度秋田県放課後児童支援員等資質向上研修レポート 抜粋

1	障害のある子どもを特別と思わず、苦手な所を手助けをして療育をするということでした。出来ないのではなく、支援することで出来るようになるのだと分かりました。得意な所は、どんどん伸ばして自信が付くことで、社会に出た時に自分はこれが得意ですと、自信を持って働くことが出来ると思いました。そして特に、我慢を覚えるということも、とても大事なのだと分かりました。大人になって働く時、我慢をして自分で考えて行動しなければならないからです。困った行動も理由があるので、しっかり話を聞いてあげる必要もあるとのことでした。悪い所を見るよりも、良い所をたくさん見つけて可能性を広げてあげることが大事だと思いました。
2	今回の研修ではとても共感を持てる内容が多く勉強になりました。発達障害の子をもつ親御さんは受け入れにくい方が多く親御さんとのコミュニケーションを大事にして障害を受け入れてもらうようにする事や問題行動があった時の対処方！人に迷惑をかけるような事をした時は同じこと（まね）をして気づかせるなどとても参考になるお話を聞く事ができ良かったです。ありがとうございました。
3	私が今勤めている学童は支援が必要な子が多い学童です。昨日通用した対応が今日はダメ！！という事が多々あります。今回学んだことの中に「場当たりの対応はしない事。将来を見据えた対応を」という言葉がありました。今している対応はその先につながっているかを心に置き、その子になぜダメなのかを気づかせたり、私たちがその子のいいところに気付く「気づき」を大切にしていきたいと思います。
4	障害のある子どもに対応する児童発達支援では、その子が苦手なところをどうやって補っていくかを考え、困ったときにどういう行動をすればいいのか伝え繰り返しトレーニングすることにより社会性を身につけさせているということが分かった。障害のあるなしに関わらず、子どもが困った行動をとったときはただ叱るだけではなく理由を観察して考え話を聞いて寄り添うことが大事である。本人の気持ちを受け入れ褒めることによって子どもは自分で行動を変えられるようになる。子どもは多くの経験を積み重ねて育てる必要がある。

5	今回の研修を通して、障害のある子どもやその家族を支援するためには、子どもの将来を見据え、一人ひとりの特性や苦手なことを丁寧に観察し、予測を立てながらは繰り返し支援することの大切さを学んだ。また、障害の有無にかかわらず、子どもの困った行動には必ず理由があるため、その背景や気持ちを理解しようと努め、一緒に考えながら関わる姿勢が必要だと感じた。今後は、子どもの良いところを積極的に認め、褒めることで自信を育み、安心して成長できるような支援を心がけていきたい。
6	児童発達支援と放課後デイサービスの対象年齢がそれぞれある事を初めて知った。障害の有無に関係なく、子どもの特性や対処方法等、情報は多くあった方がいいので幼稚園、保育園、学校ともっと身近に情報共有が出来る関係性を構築できれば良いと思った。子どもからの話は、私と向き合ってくれているサインだと思い、真剣に丁寧に聞き全力で答え、褒めていきたい。また子どもの色々な面を見つけるためにも、支援員全員が子どもたちを注意深く観察し、情報共有していきたい。